

『福祉の芽 育てて咲かす 笑顔の輪！』

小美玉市立 下吉影小学校区・納場小学校区・玉里小学校区



社会福祉法人 小美玉市社会福祉協議会

1 活動目標

- 活動を通じて世代を越えた協働活動の関係づくりを図る。
- 子どもときから福祉にふれ理解と関心を高め、助け合い活動を育む福祉教育を推進する

2 福祉教育推進協議会組織図

学校長
PTA会長
行政区長代表者
小美玉市老人クラブ連合会代表者
ボランティア代表者
小美玉市教育委員会学校教育課
小美玉市社会福祉協議会事務局長

3 実践活動内容

◆1年次(平成22年度)

事業名及び活動内容

1 ぼうさい探検隊の実施及びクリーン作戦事業

- ①作成されている防災マップの再点検
- ②保護者及び地域住民が危険個所の把握をすることで、事故防止となる
- ③クリーン作戦により地域でのボランティア活動が広がる

実施時期 6月

実施方法

- ①各学年ごとに確認する地域を決め、保護者及び地域住民とともにクリーン作戦を行い危険個所の再確認や新たな危険個所、区域を調べを行いました。
- ②危険内容を話し合い防災マップ上に記載しました。



◆2年次(平成23年度)

事業名及び活動内容

1 ぼうさい探検隊の実施及地域安全マップの活用

- ①作成されていた地域安全マップの再点検
- ②地域安全マップを活用し、地域全体の危険場所の把握と意識を高める

実施時期 夏休み

実施方法

- ①通学路の危険個所の点検や不審者の出やすい場所、人通りが少ない場所
110当番の家などをマップに記載しました。
- ②作成した地域安全マップの下敷きを作成し全児童へ配布、また、新一年生の安全確認に活用しました。



◆3年次(平成24年度)

事業名及び活動内容

1 避難訓練(地震)引き渡し訓練及び防災探検(親子で安全確認)

①地震等による非常事態を想定した避難訓練と児童の引き渡し訓練、及び通学路の安全確認を行うことにより、災害に備えるための避難の仕方などを家庭で話し合う事が出来る

実施時期 9月

実施方法

- ①事前に地震の恐ろしさや、避難訓練の心構え、方法、避難経路、避難場所を学習しておく。
- ②児童の引き渡しが必要となるような非常事態を想定しました。
- ③引き渡し訓練後、保護者と一緒に通学路の危険箇所区域などを調べながら下校しました。
- ④子ども会ごとに調査した危険箇所などを大型の防災マップに記載し、クリアファイルを作成し全児童へ配布しました。



4 選択事業

①ボランティアスクール、福祉体験講座の啓発

【納場小学校区】

総合的な学習の時間を使い福祉体験 車イス、アイマスク、白杖体験をしました。
体の不自由な方々の思いや願いに気づき福祉に対する理解を深めました。



【玉里小学校区】

総合的な学習の時間(かがやきタイム)を利用して車イス・アイマスク体験を行いました。

車イスの操作方法を学び、お友達を乗せて行ったところ信頼関係の必要なことやアイマスク体験では、保護者を交えて体験をしました。



【玉里小学校区】

手話体験

地域の手話ボランティアのみなさんより、挨拶や自己紹介、歌を学び身近に感じることが出来ました。手話と友だちになりました。



②社会福祉施設への訪問、ボランティア活動

【下吉影小学校】

かいごよぼう玉里のみなさんと交流

高齢者の皆さんに唄や合奏をひろうしたり、お茶入れのお手伝い、ゲーム大会をおこない楽しい時間を過ごしました。



【玉里小学校区】

ボランティア活動

ボランティア委員会が中心となりエコキャップの収集を行いました。集まりましたエコキャップは、社会福祉協議会でお預かりをしてエコキャップ推進協会への橋渡しをしました。



③未使用教室の活用事業

【玉里小学校区】

地域の老人クラブの皆さんが子どもたちの声を聞きながら未使用教室でパッチワークを楽しみました。高齢者は学校に行くことがとても楽しみで「学校へ行く時は朝から胸がドキドキするのよ」と話をして下さいました。

また、家庭科の時間やクラブの時間には、先生として子ども達に指導したり多くの学校行事に参加をし交流しました。



④指定地域間の相互交流・学習等

【下吉影小学校】

地域交流(下吉影祭)

地域の高齢者及び保護者のみなさんに児童たちが練習を重ねてきたミュージカルを鑑賞していただき、地域の方々と児童でつuitたお餅を食べ交流を深めました。



下吉影小学校の元校長先生を講師に迎えたマジックショー「子どもには遊びが大切」長い休み時間(わくわくタイム)を使いマジックショーをおこないました。独学で手品を学び、様々な施設でマジックショーを行っています。紐を使った手品を教えていただき子どもたちは大喜びでした。



5 成果と課題

(1) 成果

地域の方々(高齢者)や保護者が小学校の行事に参加することで、世代間の交流や親子のふれあいが生まれ、同じ地域に住む住民同士が顔見知りになりました。高齢者にとっては、学校へ行くことで生活に変化が現れ、子どもたちのために協力をしたいという気持ちがあふれ地域の福祉力の向上となりました。子どもたちには、自分の周りには見守りや支えてくれている人たちがたくさんいることを学び感謝の気持ちや思いやりの心が生まれました。

地域性を活かしながら、地域と学校と社会福祉協議会の三者が連携することでお互い顔の見える福祉教育を行うことができました。多くの関係者の支援協力を得ながら事業ができたことは大変良かったと思います。

(2) 課題

これからは、本事業の成果を活かし、地域と学校と社会福祉協議会のつながりを大切にしながら、地域の中にある福祉施設やボランティアなどの各種団体の力を借りて、学校と関わることのできる事業が必要と思われます。